

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研究生または卒業生

学会名	公益社団法人自動車技術会秋季学術講演会
演題名	2 モータハイブリッド乗用車の実路燃費向上手法の検討
発表者	○熊田 暉※, 石井 信幸※, 平久保 亮佑※, 加藤 彰
内容	<p>自動車の燃費と排出ガスには、国や地域ごとに定められた手法、例えば日本であればJC08モードやWLTC(Worldwide - harmonized Light vehicles Test Cycle)モードなどの走行モードに合わせて、屋内のシャシダイナモメータ(以下CD)を用いて計測し、CO、HC、およびNOxなどの排出ガスを規制値に適合させることが各国の法律で定められており、その規制基準は各国で年々厳しくなっている。</p> <p>CO2排出は自動車の燃費に反比例するため、一般ユーザーの関心も非常に高く、実路における燃費および排出ガスの研究事例も少なくない。しかしながら、各種のモード試験と実路における燃費を計測し比較検討した研究は少ない。したがってモード試験と実路試験の燃費の差異とその原因を解析し、加えて実路におけるCO2排出低減への対策手法を提示することを本研究の目的とする。</p> <p>これまでにガソリン車と1モータ方式のハイブリッド車(以下1MHV)を用いて試験を行った。本年度はハイブリッド車(以下HV車)の形式を日本における代表的なHVシステムである2モータ方式のHV車(以下2MHV)に変更し、これまでのガソリン車及び、1MHVと2MHVとの比較を目的として、昨年度までと同様に外気温度が比較的高い夏期にACオン(実路1次)で、モード試験の外気温度に近い秋季にACオフ(実路2次)の実路走行試験を行った。加えて各種CD試験を行い、結果を解析したので報告する。</p>
関連画像	